

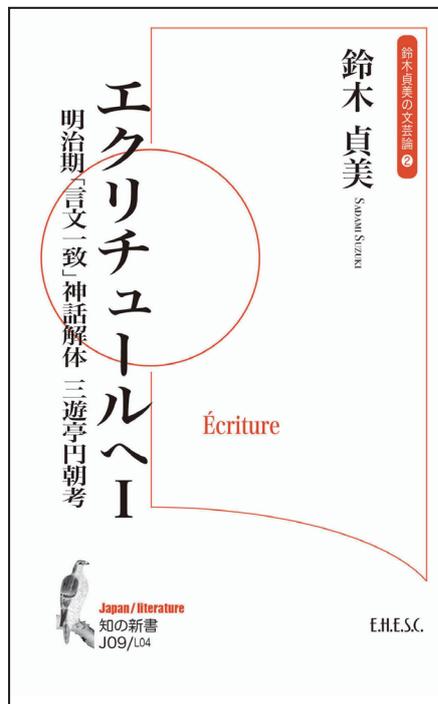
鈴木貞美

# エクリチュールへ I

明治期「言文一致」神話解体 三遊亭円朝考

**明治期近代化で言文一致の口語体が作られたという常識の間違いを解体！実際に何がなされたのかを文芸史から説く。**

「言文一致運動」は西洋における「近代文体革命運動に匹敵」という見解は、西洋近代の俗語革命についても、明治期「言文一致」体運動についても、両者の基本的性格を把握できないまま、短絡して類比している。口語体や言文一致はすでに江戸期、平安期からあった。明治期に「言文一致」運動が、分野により、メディアにより、マダラ状に進行した実態を明らかにし、それを論じてきた戦後の学界、文芸批評界の動向の虚妄性を追い直し、二葉亭四迷の果たした役割を見直し、江戸時代から連続し、二葉亭らに先行していた三遊亭円朝の実際の口演と、その「口語体」の活字化について論じる。円朝がモーパッサンの短篇を日本の江戸時代に舞台映し、長篇探偵小説に仕立て直していたなど、探偵小説史でも論じられてこなかった。日本の文芸史を書き換える碩学による学術考証の第二弾。



192 ページ 新書版型。  
定価 1430 円 (本体 1300 円 + 10% 税)  
ISBN 978-4- 924671-80-5  
C0090

**受注〆切月 11月8日**

■ 2023年12月11日に取次搬入 (トーハン、日販、楽天より) いたします。

■ 受注〆切後も、電子メールでのお問い合わせ、ご発注も受け付けております。

honyasan\_order@chinoshinsho.com  
tel:03-3580-7784(知の新書担当宛へ)

鈴木貞美 (すずき さだみ) 文芸史研究者。

1947年生まれ。東京大学文学部仏文科卒。国際日本文化研究センター及び総合研究大学院大学名誉教授。

早くから日本文芸史の再編と取り組み、近現代出版史研究に携わる。学際的な視野に立つ文理に跨る各種の国際的共同研究を開発。日本の「文学」をはじめ、「歴史」「生命」「自然」等、基礎概念の編制史研究を開拓し、深化に努めている。著者に『西田幾多郎—歴史と生命』(2020)『日本人の自然観』(2018)『日本文学の成立』(2009) (すべて作品社刊)、『ナラトロジーへ』(知の新書 J07) など多数。



受領印	文化科学高等研究院出版局 tel.03-3580-7784 fax.050-3383-4106		ご注文数
	エクリチュールへ I		冊
	—明治期「言文一致」神話解体 三遊亭円朝考		
	鈴木 貞美	定価 1430 円	
	ISBN 978-4- 924671-80-5 C0090 ¥1300		
電話番号	—	—	
FAX	—	—	
ご担当者様名			

知の新書・受注 FAX : 050-3383-4106 までご注文お待ちしております。

メール : honiyasan\_order@chinoshinsho.com